

第3章 防災啓発・教育活動

1. 2020年度 あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局 久島桃代

1. 活動内容と年間スケジュール

2020年度も昨年度に引き続き、活動方針として「企業防災力と地域防災力の向上」を掲げ、月1回の間隔で開催した（原則毎月第3月曜、ただし9月のみ祝日の関係で第4月曜日に開催）。今年度はコロナウイルス感染症拡大を受け、集合しての活動は原則中止とし、例年行っていた見学会、講習会、ワークショップ、懇親会なども中止せざるを得なかった。一方、事務局側では早い段階からZoomを導入し、講演会やセミナー、BCP塾を中心としながら、コロナ禍においても会員の知識習得や相互交流、切磋琢磨の機会を確保することを目指した。

あいぼう会は、運営委員会および運営協議会において審議しながら運営されている。2020年度の活動を表1に示す。なお、感染症の拡大防止の観点から、4月20日（月）に予定されていた総会は書面開催の形で5月に延期し、特別講演会は中止となった。

表1 2020年度あいぼう会の活動

日期	総会・運営協議会	運営委員会	基調講演会	講演会	講習会	見学会	防災セミナー	BCP塾	ワークショップ	懇親会	備考
4月20日											
5月18日	○	○									総会は書面開催
6月15日		○					○	○			
7月20日		○					○	○			
8月24日		○					○	○			
9月28日		○					○	○			
10月19日		○					○	○			
11月16日		○					○	○			
12月21日		○					○	○			
1月18日		○					○	○			
2月15日	○			○			○	最終報告会			
3月15日		○					○	○			
合計回数	2	10	0	1	0	0	10	9	0	0	

注：総会以外はすべてZoomにて開催。Zoomが利用できない一部の会員に対しては、八草キャンパスから参加してもらった。

2. 総会（コロナのため書面開催）

書面評決受付：2020年5月18日(月)～5月22日(金)

- ・第1号議案 2019年度活動報告
- ・第2号議案 2020年度活動方針・計画
- ・第3号議案 2020年度活動予定

→すべて承認された

3. 講演会

- ・2021年2月15日(月)

講師：須藤美音氏（名古屋工業大学 准教授）

テーマ：見えない敵と戦う～ウィルスと環境 ～※非公開、会員の紹介者のみ参加可

4. 防災セミナー

昨年度までと同様に、防災に関わる各分野の専門家に依頼してセミナーを開催したほか、コロナウイルス感染対策をテーマとしたセミナーも行った。

- ・2020年度 第1回（通算 第60回）：2020年6月15日(月)

講師：横田崇氏（愛知工業大学 教授）

テーマ：家具固定キャンペーン等について

- ・2020年度 第2回（通算 第61回）：2020年7月20日(月)

講師：久島桃代氏（愛知工業大学地域防災研究センター 研究員）

テーマ：場所を分かち合い・声を聴く～その可能性と課題～（陸前高田市調査報告）

- ・2020年度 第3回（通算 第62回）：2020年8月24日(月)

講師：下間正隆氏（日本赤十字豊田看護大学 教授）※「講演会」として一般公開で開催

テーマ：イラストで理解する新型コロナの感染対策～8月末の時点で、コロナをどのようにとらえて、どのように行動すれば良いか～

- ・2020年度 第4回（通算 第63回）：2020年9月28日(月)

講師：五味孝夫氏（名古屋地方気象台 防災管理官）

テーマ：防災気象情報の改善とその活用～東海豪雨から20年～

- ・2020年度 第5回（通算 第64回）：2020年10月19日(月)

講師：中村吉男氏（愛知工業大学 教授）

テーマ：災害廃棄物再利用の現状と課題

- ・2020年度 第6回（通算 第65回）：2020年11月16日(月)

講師：平川一臣氏（北海道大学 名誉教授）

テーマ：南海トラフの津波と地震～堆積物からの考察～

- ・2020年度 第7回（通算 第66回）：2020年12月21日(月)

講師：廣内大助氏（信州大学 教授）

テーマ：2019年台風19号による千曲川流域の洪水被害

- ・2020年度 第8回（通算 第67回）：2021年1月18日(月)

講師：石川盛久氏（愛知県防災危機管理課）

テーマ：南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応について

講師：竹内剛氏（愛知県建設局砂防課）

テーマ：土砂災害から身を守る

- ・2020年度 第9回（通算 第68回）：2021年3月15日(月)

講師：横田崇氏（愛知工業大学 教授）

テーマ：家具固定キャンペーン・アンケート結果

5. BCP塾

あいぼう会では企業防災力の向上を目指す取り組みの中核として、2018年度からBCP塾を設置した。2018～2019年度の2年間は会員企業がBCP（企業継続計画）の策定と継続的な維持・更新を可能とすることを目指して取り組みを進めてきた。さらに今年度では、BCPに加えLCP（生活継続計画）に関する取り組みも開始している。2020年度はBCP塾を合計9回開催した。塾を3つのグループに分け、グループ1ではBCP導入版の作成を、グループ2では災害に備えた業種別の連携団体づくりを、グループ3ではLCP作成の導入として家具固定に挑戦した(表2)。

表2 2020年度BCP塾の活動スケジュール

月	日		グループ1 初級版を作成	グループ2 あいぼうのつくり方	グループ3 LCP
		目的	BCPを策定できていない企業に対し、中小企業庁のBCP策定入門コースをベースとした「あいぼう会版BCP策定入門編」を利用し、本ワークショップでBCP策定入門編を作成する。	大震災時、被害の少ない地域の企業や、組合や協定先とのネットワークが重要である。 本Gでは、BCPに必要なあいぼう作りを模索する。	会員がこれまで地域や家庭の中で行ってきた防災活動の検討と、あいぼう会版家具固定対策の実践を試みる。あいぼう会版LCPの作成と、地域防災力の向上を目指す。
6	15	第1回	概要説明		
7	20	第2回	自己紹介、BCPチェックシート記入	各企業の災害時ネットワークの紹介	参加者の自己紹介および地域や家庭での防災活動の紹介①
8	24	第3回	BCPチェックシート集計結果、BCP入門編の記載	東北地震での事例研究報告	参加者の自己紹介および地域や家庭での防災活動の紹介②
9	28	第4回	入門編記載内容発表	所属する組合や協会の災害時サポートの報告	「私にもできる！家具固定」の概要説明、導入部分をやってみる（残りの部分は次回までに各自にやってみよう）
10	19	第5回	入門編記載内容発表	企業とのネットワークの可能性について報告	結果報告
11	16	第6回	入門編記載内容発表	所属する組合や協会の災害時サポートの報告	「私にもできる！」ステップ5～7までの進捗状況確認
12	21	第7回	入門編記載内容に伴う訓練実施状況発表	企業とのネットワークの可能性について報告	「私にもできる！」ステップ5～7までの進捗状況確認
1	18	第8回	BCPチェックシート記入、まとめ	まとめ	まとめ
2	15		(BCP塾最終報告会)		
3	15	第9回	来年度の内容整理	来年度の計画	来年度の内容整理

6. 運営委員会

新型コロナウイルス感染症拡大により、例会同様、運営委員会も対面による会合は基本的にとりやめ、オンラインで開催した。また、例年であれば年2回開催していた見学会が例会に差し替えられたりしたため、結果的に昨年度よりも回数が4回増えることになった。

- ・2020年度 第1回 (通算第112回) : 2020年5月18日(月)
- ・2020年度 第2回 (通算第113回) : 2020年6月15日(月)
- ・2020年度 第3回 (通算第114回) : 2020年7月20日(月)
- ・2020年度 第4回 (通算第115回) : 2020年8月24日(月)
- ・2020年度 第5回 (通算第116回) : 2020年9月28日(月)
- ・2020年度 第6回 (通算第117回) : 2020年10月19日(月)
- ・2020年度 第7回 (通算第118回) : 2020年11月16日(月)
- ・2020年度 第8回 (通算第119回) : 2020年12月21日(月)
- ・2020年度 第9回 (通算第120回) : 2021年1月18日(月)
- ・2020年度 第10回 (通算第121回) : 2021年3月15日(月)

7. 運営協議会

2020年度運営協議会 (通算第11回) : 2021年2月15日(月)

運営協議会にて、2020年度活動報告および2021年度活動方針・計画の発表を行った。また、活動に関する外部評価を以下の企業・団体のご担当者（ご所属のみ、50音順）に実施していただいた。

【専門委員ご所属】

一般社団法人 中部経済連合会、中部電力パワーグリッド株式会社、東邦ガス株式会社、名古屋商工会議所

【アドバイザーご所属】

愛知県庁、大府市役所、幸田町役場、豊田市役所

2. 2020年度 あいぼう会BCP塾の取り組み

久島桃代・落合鋭充・倉橋奨

1. はじめに

南海トラフ沿いにおける大規模地震発生が想定される東海地方の企業は、被害を最小化して早期の操業再開を可能とする体制が整える必要がある。こうした問題意識のなかで、あいぼう会では企業のBCP（業務継続計画）策定、さらには従業員のLCP（生活継続計画）へ取り組むことが重要な課題とされてきた。現時点ではあいぼう会の会員企業においてもBCPの策定が達成されていない企業があり、また、策定済みの企業であっても適宜見直しを行い、発動時に早期の復旧・操業再開に至ることができるよう体制を整えていく必要がある。

以上の状況をふまえて、あいぼう会では企業防災力の向上を目指す取り組みの中核として、2018年度からBCP塾を設置した。2018～2019年度の2年間は会員企業がBCPの策定と継続的な維持・更新を可能とすることを目指して取り組みを進めてきた。さらに2020年度からは、BCPに加えLCPに関する取り組みも開始した。以下では2020年度の活動内容について振り返る。

2. 2020年度の活動方針とスケジュール

2020年度のBCP塾は、合計9回開催された。塾を3つのグループに分け、グループ1ではBCP導入版の作成を（班長：落合）、グループ2では災害に備えた業種別の連携団体づくりを（班長：倉橋）、グループ3ではあいぼう会版LCP作成の導入として、家具固定に挑戦した（班長：久島）。

表1 2020年度BCP塾の活動スケジュール

月	日		グループ1 初級版を作成	グループ2 あいぼうのつくり方	グループ3 LCP
		目的	BCPを策定できていない企業に対し、中小企業庁のBCP策定入門コースをベースとした「あいぼう会版BCP策定入門編」を利用し、本ワークショップでBCP策定入門編を作成する。	大震災時、被害の少ない地域の企業や、組合や協定先とのネットワークが重要である。本Gでは、BCPに必要なあいぼう作りを模索する。	会員がこれまで地域や家庭の中で行ってきた防災活動の検討と、あいぼう会版家具固定対策の実践を試みる。あいぼう会版LCPの作成と、地域防災力の向上を目指す。
6	15	第1回	概要説明		
7	20	第2回	自己紹介、BCPチェックシート記入	各企業の災害時ネットワークの紹介	参加者の自己紹介および地域や家庭での防災活動の紹介①
8	24	第3回	BCPチェックシート集計結果、BCP入門編の記載	東北地震での事例研究報告	参加者の自己紹介および地域や家庭での防災活動の紹介②
9	28	第4回	入門編記載内容発表	所属する組合や協会の災害時サポートの報告	「私にもできる！家具固定」の概要説明、導入部分をやってみる（残りの部分は次回までに各自にやってきてもらう）
10	19	第5回	入門編記載内容発表	企業とのネットワークの可能性について報告	結果報告

11	16	第6回	入門編記載内容発表	所属する組合や協会の災害時サポートの報告	「私にもできる！」ステップ5～7までの進捗状況確認
12	21	第7回	入門編記載内容に伴う訓練実施状況発表	企業とのネットワークの可能性について報告	「私にもできる！」ステップ5～7までの進捗状況確認
1	18	第8回	BCPチェックシート記入、まとめ	まとめ	まとめ
2	15		(BCP塾最終報告会)		
3	15	第9回	来年度の内容整理	来年度の計画	来年度の内容整理

3. 2020年度の活動総括

2020年度のBCP塾の活動総括として、各グループの活動内容をまとめ、次年度の計画について述べる。

BCP塾グループ1では、BCPを策定できていない又は策定はしているが見直す必要がある企業を対象に、あいぼう会版BCP策定入門編を利用し、それぞれの企業が作成し、グループワークの中で、課題や問題点などを情報共有しながら議論を進めた。また、作成したBCPを基に運用訓練（安否確認）を実施し、訓練の状況や問題点等の話し合いを行った。グループワークについては、メンバー各々の実施事項や課題等を共有することができたなど、概ね高評価であった。一方で、グループワークの時間が足りないなどのご意見もいただいた。来年度はメンバーからのご意見を参考に、継続予定である。

グループ2では、巨大災害後の復旧時に、遠地企業や団体、組合等と連携・協力できる「あいぼうづくり」をテーマとして活動した。特徴は、巨大災害時に被害の少ない遠地企業や団体との連携・協力に着目した点である。今年度は、グループ内の会員企業が現状報告し、ディスカッションした。その中で、所属協会との連携実績、サプライチェーンとの連携の難しさ、親会社との連携の重要性等が浮き彫りになった。来年度も引き続き会員企業の報告を基に、災害復旧時の連携を含めた「あいぼうづくり」の可能性を模索する。

グループ3では、LCPへの切り口として地域防災研究センター作成のマニュアル『私にもできる！家具固定』を使用し、各メンバーの家庭や職場などで実際に家具固定に挑戦してもらった。毎回家具固定の進捗状況を情報共有し、マニュアルでは紹介されていない工夫や、課題について話し合った。その結果、手間と出費がかかる取り組みは依然としてハードルが高いこと、キッチンまでは対策が進んでいないケースが多いことが判明した。次年度は、家具固定を含めたLCP全体への目配りを行い、LCP概念の整理や感染症対策の視点からのLCPの検討などを検討中である。また、家具固定の実践を踏まえ、難しさや課題解決の方法について議論を深めていく計画である。

3. 第12回社会人防災マイスター養成講座

講座責任者 横田崇

1. 講座概要

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が警戒されている地域でもある。社会人防災マイスター養成講座は、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成して、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるようにすることを目的としている。

愛知工業大学を中心として、名古屋工業大学、大同大学の教員が参加し講座を催し、本年度11年目となる（平成21年10月開講）。

本講座は、1年間の課程として、年間7科目を受講することとしている。第12回講義時間合計は117時間10分の授業を開講した。学校教育法に基づき60時間以上の授業を受講した履修生に文科省より「履修証明書」が交付される。

対象者を社会人としているため、授業はeラーニングを中心として便宜を図るようにしているが、マイスターとして指導力を発揮するための問題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生は個人・グループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

2. 第12回カリキュラム

令和元年10月から第12回の入学者に対する講義科目と担当教員を表1に示す。

表1 科目と担当教員

開講期	授業科目	担当教員
全期	講座責任者	横田
秋期	防災学概論	正木、横田
	建築防災論	田村（建築都市耐震研究所）、内藤（株総合資格）
春期	防災リテラシ	倉橋、落合（株エーアイシステムサービス）
	企業防災論	建部、渡辺（名工大）
	地域防災論	小池、鷺見（大同大）、早川（あいち防災リーダー会）
	防災フィールドワーク	今井（株G・フレクション）
全期	特別研究	横田

中京圏における第一線で地震に関連する会社や施設を見学し、現地現物による防災に関する学習を行う防災フィールドワークでは、下記の施設を見学した。（表2）

表2 第12回防災フィールドワーク見学先一覧

日付	行先	目的・内容
2019年10月15日	カサイ製作所本社工場	工場立地環境の観察、事業復旧・継続の問題点を探る。
2019年10月29日	カサイ製作所千秋工場	
2019年11月12日	カサイ製作所本社工場	本社・千秋工場の防災対策、事業継続対策を学習する。

2019年12月17日	中部電力株式会社 浜岡原子力発電所	日本のエネルギー政策と原子力発電の役割を学習する。
2020年6月30日	名古屋港管理組合	名古屋港管理組合の防災計画（地震・津波対策）と地震時の対応や対策を学習する。
2020年7月21日	豊田市消防本部	消防署の災害対応要領や資機材を研修することにより防災に関する識能向上を目的とする。

3. 第12回履修生

履修生には履修科目の他に特別研究が課せられている。特別研究は大学における卒業研究に対応している。令和1年10月入学の履修生は1年間の特別研究の成果を、令和2年9月に、先生方、履修生、履修生OBの前で発表した。

表3 第12回（令和1年秋入学）履修生の特別研究テーマ

No	学籍番号	名前	特別研究テーマ
1	G19551	小笠原 禎	豊田通勤圏における災害情報伝達と企業連携の現状と課題
2	G19553	近藤 寿史	工業団地における防災と事業継続
3	G19554	佐藤 友則	自社リソースの建設事業と保険事業を活用した水災リスク対策の推進
4	G19555	鈴木 匠	避難所に指定されている企業の準備と対策
5	G19556	深町 裕之	刈谷市熊地区の地区防災活動のレベルアップへの企業としてさらなる連携強化

4. 第13回（令和2年秋期）入学生

令和2年10月6日に開講式を自由ヶ丘キャンパスで開催した。受講生は製造業、情報通信業をはじめ、7名である。令和3年3月で半期が終了し、令和3年7月に卒業予定である。

表4 累計履修生数

入学年	H21年 秋	H22年 春	H22年 秋	H23年 秋	H24年 秋	H25年 秋	H26年 秋	H27年 秋	H28年 秋	H29年 秋	H30年 秋	R1年 秋	R2年 秋
履修生数	10	10	9	10	9	9	8	7	8	7	6	6	7



写真1 現地学習の様子



写真2 第12回修了式

4. 緊急地震速報を活用した「第15回防災訓練」の実施と職員の図上訓練の実施

地域防災研究センター長 横田崇

本学は緊急地震速報を活用した防災訓練を実施している。訓練は年に一度、秋季に実施されている。令和2年度は15回目となるが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、避難訓練については、建物からサッカー場への避難行動は取りやめ、地震時に身の安全を守るシェイクアウト訓練の実施までとした。

一方、学園職員等の訓練については、今年は、理事長等の学園・大学の危機管理メンバー及び各対応を行う班長以上の少数による図上訓練を実施し、地震時の対応の確認と課題を抽出する目的で図上訓練を実施した。なお、各班における職員の役割や消火器具等の確認については、各班長に委ねた。

訓練の概要は下記のとおり。

(1) 避難訓練

実施日時：令和2年11月18日（水） 11：15～11：16

想定地震：東海・東南海連動地震（M8.5、震央距離140km）

猶予時間：40秒

予想震度：6弱

緊急放送：緊急地震速報を受信すると自動的に放送設備が起動し、サイレンが2度鳴り、続いて「地震が来ます」の放送が繰り返される。

退避行動：学生は机の下に身を隠す、実験機械から退避する等の行動をとる（あいちシェイクアウト訓練に参加）

避難行動：センター長がマイクで「地震が収まりました、授業を再開してください」と放送し終了。（令和2年度は、密を避けるため、サッカー場での集合点呼は実施しなかった。）



写真1 各教室の退避行動の様子

(2) 図上訓練

初めての試みとして、名古屋電気学園対策本部と愛知工業大学対策本部合同の図上訓練を実施した。

実施日時：令和2年11月18日（水） 11：45～12：10

場 所：本部棟2階会議室

内 容：対策本部員及び各班長（初期消火班、救出救護班、避難誘導班）が集まり、図上シミュレーション訓練を実施

シナリオ：東海・東南海連動地震の避難訓練シナリオを基にしたシナリオ読み上げ型訓練

参加者：職員23名

スケジュール：

- ・ 11：45～ 図上訓練実施
 - ◇ 当日気が付いた点を記載し、提出
- ・ 参加者（主に班長）からの意見のまとめ
- ・ 訓練反省会を実施



写真3、4 図上訓練の様子

（3）訓練の改善等

図上訓練により、大学本部における訓練と、設置校を含む学園本部との連携訓練が必要であることが確認された。地震発生時における各職員の役割を確認し課題を分析する上で、来年度は、各班の役割を確認するための図上訓練と、学園全体で行う図上訓練を実施し、より適切な対応が行えるよう検討する予定である。

5. 学校防災シンポジウム2020 コロナ禍における学校防災

文責：小池則満

服部亜由未・久島桃代・森田匡俊・廣内大助・橋本操・落合鋭充・小穴久仁

学校防災に関する様々な活動について発表・紹介し、今後のあり方について考えることを目的としたシンポジウムを2016年より毎年開催している。第5回となる2020年は、「コロナ禍における学校防災」をメインテーマとし、COVID-19に対応しつつ学校防災、防災教育を継続していくための工夫について考えるシンポジウムとして企画をした。愛知工業大学の主催、愛知県立大学の共催、岐阜聖徳学園大学、岐阜大学、信州大学の協力を得るとともに、株式会社エーアイシステムサービスによる運営支援を受けて実施した。

開催日時：2020年12月5日（土）14：00～17：00

場 所：オンライン開催（ZOOM）

総合司会：久島桃代（愛知工業大学 PD研究員）

参加人数：約90名

◆ プログラム

主催者挨拶：横田崇（愛知工業大学 教授 地域防災研究センター長）

【第一部 基調講演】

「災害弱者の避難とその考え方」清水宣明（愛知県立大学 教授）

【第二部 コロナ禍と防災活動の事例紹介】

「愛知県における洪水避難訓練実施事例」小池則満（愛知工業大学 教授）

「岐阜県における防災キャンプ実施事例」橋本操（岐阜大学 准教授）

「横浜市における児童引き渡し訓練実施事例」森田匡俊（岐阜聖徳学園大学 准教授）

「学校と地域とで考える危機管理～コロナ禍における信里地区総合防災教育の実践」

*ビデオ講演 立野正之（長野市立信里小学校 教頭）

【第三部 パネルディスカッション】

コーディネーター：服部亜由未（愛知県立大学 准教授）

登壇者：清水宣明（愛知県立大学 教授）

石神淳司（岐阜市立長良西小学校 校長）

中村優太（横浜市立品濃小学校 教諭）

廣内大助（信州大学 教授）

小池則満（愛知工業大学 教授）



森田匡俊（岐阜聖徳学園大学 准教授）

橋本操（岐阜大学 准教授）

閉会の挨拶：宇都宮みのり（愛知県立大学 教授 地域連携センター長）

◆概要

学校の教職員、教育や防災に関心のある学生、防災ボランティア、防災の研究者をはじめ、多くの皆さんに登録・聴講いただきました。

愛知県立大学の清水宣明教授からは、保育園等における乳幼児を対象とした防災の考え方、避難の方法、そしてコロナ禍への対応など、事例を交えながらのご講演をいただきました。

次いで、コロナ禍において工夫をしながら防災に関する取り組みを継続している4件の事例を紹介した。パネルディスカッションでは、基調講演の清水教授のほか第二部で紹介した事例に関わった皆様にも参加いただいて、現状や問題点についてディスカッションを行った。

コロナ禍を受けての初のオンライン開催（ZOOM）となったが、多くの参加者を得て、盛況に終えることができた。

【参加者からの主な感想】

- ・学校防災と感染対策についての2つの観点が織り交ぜられながら、進んでいったのが興味深かった。
- ・コロナを正しく恐れるために清水先生の基調講演は大変参考になった。また、各地域の学校防災の取り組みを聞くことができ勉強になった。
- ・清水先生の目的を明確にした災害対策の考え方が非常にためになった。また、コロナ対策も漠然とした考えであったものが、優先順位がはっきりと見えた。
- ・各学校で取り組まれている避難訓練の中で、コロナを上手く防災教育の中に取り込みながら行っている研究例を知ることができた。

当日、ご登壇いただいた皆さん、参加いただいた皆さんに心より御礼申し上げます。



オンライン開催となったシンポジウムの様子

6. あいちシェイクアウト訓練

久島桃代・横田崇・倉橋奨・落合鋭充

1. 概要

あいちシェイクアウト訓練は愛知県防災会議が主催し、愛知県が主催する防災訓練である。訓練の内容は、地震発生時に各自が直ちに身の安全を確保する安全行動として、「1. しせいをひくく、2. あたまをまもり、3. じっとする」を1分間実施することである。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、緊急事態宣言及び措置期間が設けられた結果、記者発表が例年より遅れることとなった。そのため参加者募集期間も短縮され(6月29日～8月31日)、ウェブサイト等を通じた参加表明(登録)数も前年度と比べかなり減少した(544,566人、36%減少)。

当センターは、愛知県からの依頼により、あいぼう会、株式会社エーアイシステムサービスとともに「あいちシェイクアウト訓練実行委員会」の一員として、訓練の実施に協力した。昨年度に引き続き、ウェブサイトの作成と運営、ポスター・リーフレットの作成について協力した。以下、愛知県とともに行った2020年度の取り組みについて報告する。



図1 令和2年度「あいちシェイクアウト訓練」リーフレット

2. 実施スケジュールおよび参加者の内訳

訓練の実施は6月29日に愛知県知事より報道発表され、同時に参加登録が開始された。参加登録期間は訓練前日の8月31日までの約2か月間で、例年より1か月短かった。この間に54万4,566人(778件)がウェブページ等

を介して参加登録を表明した。2019年度（85万6,357人、1,001件）と比較すると、31万1,791人（223件）の減少だった。訓練は、原則として9月1日正午を開始の合図として、各自がその場で1分間、身の安全を図る姿勢をとった。

参加を表明した団体は、行政が22万9,838人、学校（小・中学校および高等学校）が17万4,306人であり、これらで全体の7割強を占めた。行政は前年度と比較して49.2%、学校は21.9%の減少がみられた。次いで、企業が12万5,754人であった。

3. 参加者の感想

2020年度の訓練においても、前年度までと同様に参加者から「振り返りシート」を募集した。「振り返りシート」は訓練実施時の写真を貼り付けて感想を記入する形式のものである。2021年2月までに22件（公開可能22件）の投稿があり、これらはウェブページ上に掲載されている。ある小学校では頭を守るポーズを「ダンゴムシポーズ」と呼んで、児童がイメージしやすいよう工夫していることがうかがわれた。またある企業からは、訓練をきっかけに室内環境を見直すようになったとの声も寄せられた。

4. 今後の課題

参加登録促進（目標100万人）のための取り組みとして、学校・行政・企業等それぞれの団体ごとに効果的な方法で呼びかけを行い、地域全体でシェイクアウト訓練に取り組むようにする。また、個人・家族単位での登録を増やす具体策を考案することが目指される。

7. AITカレッジ講座

地域防災研究センター長 横田崇

愛知工業大学AITカレッジ講座は毎年開催されている市民向け講座である。地域防災研究センターは「地域防災研究センター講座」として毎年、春季、秋季とも2回ずつ開講し、センター教員が講義を担当している。本講座は社会的貢献事業としての性格が強いことから受講料無料として募集されている。令和2年度の春季講座は、コロナ禍の状況により、中止となった。以下に講座テーマと担当教員を示す。

【秋季講座】

テーマ「最近の災害の特徴とその対策」

最近、毎年のように発生している風水害と地震・津波災害について、それらの被害の特徴と発生のメカニズムについて学びます。そして、これら災害に対する新たな対策と情報について説明し、被害を軽減するために各自がなにをすべきか考えます。

第1回 2020年11月7日（土）10時30分～12時

横田崇 愛知工業大学地域防災研究センター長：最近の災害の特徴とその対策

－地震津波災害から命をまもる－

第2回 2020年11月21日（土）10時30分～12時

五味孝夫 名古屋地方気象台防災管理官：防災気象情報の利活用について

図2 2020（令和2年）年度 AITカレッジ講座秋季チラシ

8. 豊田市との連携

8-1. 令和2年度豊田市BCP作成セミナーの開催

横田崇

1. はじめに

企業の防災力の向上には、各企業におけるBCP（事業継続計画）の作成が不可欠である。しかし、中部経済連合会の2018年の調査によると、南海トラフの巨大地震への対応計画（事業継続計画：BCP）の策定率は、従業員数300人以上の大企業57%、300人未満の中企業17%、20人未満の小企業4%である。

この数値から、大企業はBCPを策定する必要があるが、中小企業は必ずしも策定しなくても良いと見えるかも知れないが、実際は、その逆で、中小企業こそBCPが必要となる。実際に被災した場面を想定すると、企業の規模が大きくなると、工場等が複数の地域に立地し、被害も一部に止まる可能性もある。しかし、企業の規模が小さくなると、工場の立地している地域が被災すると、会社の全部もしくは大半が被災することになり、会社の規模が小さくなればなるほど、BCPの策定が必要となる。

このような状況を踏まえ、2019年から、豊田市と当センターが協働で、豊田市内にある企業のBCPの作成を支援するための「豊田市BCP作成セミナー」を開催することとした。2020年の豊田市BCP作成セミナーの概要を報告する。

2. 豊田市BCP作成セミナーの概要

セミナーは、豊田市地震対策事業者連絡会の会員の企業を対象とし、南海トラフの巨大地震に対応するBCP策定を目標に、各回2時間・年間4回で計画した。このセミナーの募集のチラシは、図1に示すとおりで、今年度から、入門編に中級編を加えた2コースとした。入門編は、主として、まだBCPを策定していない企業の方に、中級編は昨年度入門編を受講した企業の方と、既にBCPを作成している企業を対象として参加を呼びかけた。

セミナー資料は、webで見ることができる「愛知県のBCPの作成コース」と「中小企業庁のBCPの作成コース」の「入門編」と「中級編」を参考にした。

セミナーでは、最も基礎的な事項として、防災マニュアルとBCPとは異なることを説明し、BCPの基本を理解した上で、従業員の命を守ることを第一とするには、会社外にいる際にも各人が安全を確保するために、従業員各人のLCP（生活継続計画）の作成が必要となることについても説明した。この点が、このBCPセミナーの特色である。

セミナーの進め方は、入門編については、BCPの基礎的な考え方等の講義と、各自が入門編としての基礎的なBCPを作成する実習との2部構成とした。BCPの作成そのものは各自が宿題として作成し、セミナーでは、作成してきたBCP等をもとにして、ワークショップ形式で議論し問題点等を抽出すると共に理解度を深めた。そして、問題点等については、宿題として修正し、次回のセミナーで議論した。中級編は、既にBCPを作成している企業を対象としていることから、BCPの基本的な考え方を基に、作成されているBCPの内容の拡充と基本的な事項の確認を行い、BCPを定着させるための訓練と点検・修正によりPDCAサイクルを定着させ、BCPの向上が図れるようになることに主眼をおいている。

中級編においては、2回目のセミナー後に建設関係の企業複数社の入会希望があったことから、11月19日に1

回目と2回目の補講セミナーを行い、3回目のセミナーから途中入会の企業も参加できるよう対応した。

セミナーは、新型コロナウイルス感染防止対策のため、3回目、4回目はオンラインセミナーとし、6月24日に開催した。そして、オンラインセミナーでのグループワークの不足や質問等に対応するため、対面でのフォローアップセミナーを開催した。実施日は下記のとおり。

○第1回（総合技術研究所視聴覚室）

- ・入門編 2020年8月26日（水）10：00～12：00
- ・中級編 2020年8月26日（水）14：00～16：00

○第2回（総合技術研究所視聴覚室）

- ・入門編 2020年10月20日（火）10：00～12：00
- ・中級編 2020年10月20日（火）14：00～16：00

○補講セミナー（地域防災研究センター 1F）

- ・入門編 2020年11月19日（木）13：00～14：45
- ・中級編 2020年11月19日（木）15：45～17：00
- ・家具固定説明 2020年11月15日（火）：（動画配信のみ）

○第3回（オンライン）

- ・入門編 2021年2月16日（火）10：00～12：00
- ・中級編 2021年2月16日（火）14：00～16：00

○第4回（オンライン）

- ・入門編 2021年3月16日（火）10：00～12：00
- ・中級編 2021年3月16日（火）14：00～16：00

○対面フォローアップ（総合技術研究所視聴覚室）

- ・入門編 2021年3月23日（火）15：00～16：30
- ・中級編 2021年3月24日（水）13：00～15：30

2021年度についても、これまでと同様、豊田市と地域防災研究センターとの協働で、「豊田市BCP作成セミナー」を開催することとしている。加えて、2021年には、「入門編」、「中級編」に加え、中級編のアドバンスコースである「上級編」の開催を検討している。このセミナーの開催により、より多くの企業でBCPが作成され、かつ企業としてのBCPがより確実かつ適切に機能するようになることを期待するものである。

WE LOVE とよか

豊田市地震対策事業者連絡会会員向け!

BCP (Business Continuity Plan) の重要性を学び、実践するためのセミナーです。

BCP作成セミナー

Business Continuity Plan

豊田の事業者の皆様、BCP (事業継続計画) の作成をご検討中ですか？
いつか起こるかもしれない「想定外の大規模災害」への備えとして、BCPの作成は急務です。このセミナーでは、BCPの必要性や、作成の重要性をわかりやすい形式でご説明いたします。今回は震災に特化した最新情報を提供し、震災対策を推進していただきます。参加費としてからご参加し、施設と従業員の安全安心の確保と、事業の継続について考えましょう!

講師
愛知工業大学地域防災研究センター 主任
内藤 孝典 先生 (非常勤)
横田 崇 様
講師プロフィール
1962年名古屋市生まれ。1987年愛知工業大学工学部機械系卒業。卒業後、日立製作所に入社。日立製作所では、機械系製品の開発・設計、生産管理、品質管理、営業、技術支援などに従事。その後、独立して経営者となり、現在は愛知工業大学地域防災研究センター 主任として、防災に関する講演、セミナー、研修などの活動に従事。また、愛知工業大学地域防災研究センター 地域防災推進員として、地域の防災活動の推進に貢献している。

会場
愛知工業大学総合技術研究所
祝聴覚室 2階

日時

第1回	令和2年 8月26日(水)
第2回	令和2年 10月20日(火)
第3回	令和2年 12月15日(火)
第4回	令和3年 2月16日(火)

全回とも、**入席 10:00~12:00** **午会 14:00~16:00**

セミナーの目的

- 入門編 (定員40名)** BCPの考え方を学び、人・物・情報・金に関する必要最低限なBCPの作成と完成を目指す。
- 中級編 (定員40名)** 作成済みのBCPを再確認し、社内でのBCPの発動と訓練を実施し、BCPサイクルを回す。

お申込み
最新の申込書をご記入いただき、豊田市防災対策部へメールでご提出ください。
申込み締め切り: 令和2年8月7日(金) ※申込み多数の場合は抽選

BCP作成セミナー2020のチラシ



ワークショップの様子

参考文献

中部経済連合会・岡崎商工会議所・豊田商工会議所・四日市商工会議所、「企業の地震対策に関するアンケート」調査結果、2018.

8-2. とよた防災啓発推進協議会 キャンプde学ぼうさい！への協力

久島桃代・小穴久仁

1. はじめに

2018年度から設置された「とよた防災啓発推進協議会」では、大規模な災害の発生に備えて市民・地域の防災、減災活動の活性化につながる啓発事業が進められてきた。前年度に引き続いて2020年度も当センターは協議委員として参画し、啓発事業の企画・実施に協力した。同協議会は下記日時に豊田市災害対策本部室（豊田市役所南庁舎4階）で開催され、PD研究員の久島が出席した。

第1回協議会：2020年4月30日（木）コロナ感染症拡大により書面開催

第2回協議会：2020年7月3日（金）14：00～15：00

第3回協議会：2020年8月6日（木）14：00～15：00

第4回協議会：2020年9月29日（火）14：00～15：00

2. 啓発事業の概要

今年度は防災に関する番組制作と展示会開催の2本柱で啓発事業を行った。番組は災害時にも役立つキャンプのノウハウや技術を紹介するという趣旨で、ひまわりテレビとの共同で制作した。撮影は1月20日（水）に豊田市の千石公園で行い、講師役を防災キャンプ研究所代表の高村秀史氏に依頼、その他の出演者は役者を起用した。

防災キャンプ動画「キャンプde学ぼうさい！」（豊田市公式YouTubeチャンネル）

<https://www.youtube.com/watch?v=DyFEqjse3lk>

以下では、地域防災研究センターも出展者として関わった展示会の模様を報告する。

3. 防災啓発に関するイベント展示「キャンプde学ぼうさい！」について

・日時 2021年3月13日（土）～3月14日（日）

各日 10時から16時

・場所 とよしば（愛知環状鉄道「豊田市駅」隣）

・内容 防災啓発（パネル展示など）

災害時にも使えるアウトドア商品の物販

ワークショップ（感染症対策に留意した上で体験ブースも可）など

当日は、地域防災研究センターからPDの久島と、(株)エーアイシステムサービスから小穴の2名がブースに立ち、地域防災研究センターやあいぼう会の展示用パネル・ちらしのほか、「豊田市防災カルテ」や『わたしにもできる！家具固定』を展示した。特にカルテや家具固定マニュアルは来場者の関心を集め、「避難時は一番何を優先すべきか」「家具固定はどこから手を付ければいいのか」など、様々な質問が寄せられた。



写真 展示の様子

9. 地域防災研究センター見学会

本センター見学会では、地震防災・減災を中心とした講義や緊急地震速報のデモンストレーションなどを行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、ほぼ見学会を開催できなかったが、企業5組19名、高校生・保護者269名、合計288名の方にお越しいただきました。



写真1 高校生の見学の様子

10. 「インスタント防災」の配信

小池則満・橋本操・久島桃代・倉橋有希

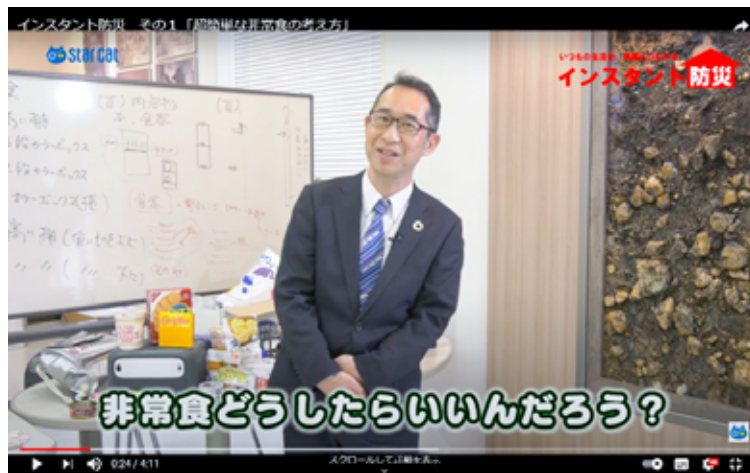
災害に対する備えを、もっと気楽に、もっと簡単に行うための情報発信を目的として、名古屋市のスターキャット・ケーブルネットワーク株式会社（以下、スターキャット社）が公式YOUTUBEチャンネルSTARCATONLINEから配信する「インスタント防災」に、監修という形で参画した。

制作は、本センタースタッフより災害への備えについてアイデアを出し合い、これをスターキャット社が台本化するとともに、番組として編集・公開した。撮影は本センター内で行った。

その1 「超簡単な非常食の考え方」 https://www.youtube.com/watch?v=z_R45BqVIFs

公開日：2021年3月11日

非常食として消費期限が長く設定されている商品以外にも、防災備蓄として十分な保存性を持っている食品は多数販売されており、買い置きの延長として、定期的に消費しながら備蓄品を回していく考え方について、小池が出演・解説した。



その2 「家にあるもので家具固定」 https://www.youtube.com/watch?v=hCXNq1Dr_5E

公開日：2021年3月23日

地震に備えて家具固定を行うにあたり、金具等を用意しなくても、雑誌や新聞等を詰めるだけである程度固定できることを実演した。むろん、隙間を埋めるだけでは効果は限定的であるが、とにかくもっと気軽に家具固定に取り組むきっかけをつかんでほしい、という制作意図が込められている。スターキャット社の眞嶋愛梨氏が出演・解説した。

いずれのコンテンツも「インスタント防災」というタイトルの通り、できるだけお金をかけず、防災をやるぞと身構えて買い物等に行かなくても、日々の生活の延長上で取り組めることがたくさんあるのだと視聴者に気づいていただくことを目指している。いわば防災への超導入編ともいえるべきものである。

今後、風水害なども含め、様々な状況に対するコンテンツの配信を行い、広く防災に関する情報発信を行うことができれば、と考えている。スターキャット社の皆様にはこのような機会を設けていただき、心より御礼申し上げます。

11. 学防ラボの設置の経緯等とその活動

横田 崇

1. はじめに（設置の経緯等）

地域防災研究センターでは、2021年3月、地域防災研究センターの新たな研究会として、『学防(まなぼう)ラボ』を設置し、学生による防災活動を主体とした研究会として継続的に活動していくこととしました。

この研究会設置のきっかけは、「防災をしたい」という建築学科の学生たち（前島さん、横井さん、松原さん、一松くん）からのコンタクトでした。彼らは、既に、建築学科の野澤准教授の指導で、愛知工業大学の学生チャレンジプロジェクトの一つとして採択された「かまどベンチの制作」に着手していました。

彼らが制作していた「かまどベンチ」は、その名から推察されるとおり、普段は公園等の広場で「ベンチ」として利用され、災害時等には携帯型の「かまど」として、非常食を煮炊きできる機能を持つものです。しかし、彼らの真の制作目的は、「かまどベンチ」をコミュニケーションツールの一つとして、学生たちが平時から防災を考えるようになることにありました。

このため、防災について学ぶ場や、学生たちの手作りの「防災カフェ」や「ワークショップ」などを開催し、学生たちと一緒に防災を考えることを試行してみることにし、2020年8月から、「学生防災サークル（仮称）」として活動を始めました。そして、2021年3月からは、「学防（まなぼう）ラボ」として発展的に活動していくこととなりました。

2. 活動の目的とより多くの人や地域とのつながり

学防ラボの活動は、防災について、「学生が自ら考え」、「学生が主体となり行動し」、「楽しく防災力を高める」をモットーに、「地域や社会の防災力の向上に貢献する」ことを目的としています。このためには、より多くの人や地域とのつながりが重要となります。

「学防（まなぼう）ラボ」の活動は、学生が主体の研究会ですが、卒業した学生も参加できる「縦のつながり」が持てるようにしています。また、各大学との連携はもとより、各大学の学生も参加できる「横のつながり」が持てるように活動していきたいと考えています。これら、縦と横のつながりにより、より多くの人たちと、そしてより多くの地域とつながり、活動の幅が広がることを目指しています。

学防ラボの活動の目的として、社会とのつながりによる研究も重要で、そのひとつとして、百年防災社との協同研究を行っています。この研究により、法政大学、中央大学との横のつながりを広げることができました。

3. 2020年度の活動と今後の活動

学防ラボの2020年度の主たる活動に、2020年12月の「防災カフェ」と、2021年3月の「学生大防災会議2021 - 私たちにできることって? -」と題したオンラインシンポジウムがあります。これらのチラシを図1に示します。

これらはコロナ禍のなかでの活動で、オンラインでの開催となりましたが、何れの活動も、学生たち自らで企画し、チラシを作成し、司会進行も、学生自らが行いました。「学生大防災会議2021」では、研究会のメンバー、「愛知県立大学」、「法政大学」、「中央大学」等の各地の大学生、地域の防災担当の方約90人が参加し、それぞれの活動報告や意見交換を行い、横のつながりを広げることができました。

この中で、「学生には様々な年代の人と関わりやすく、フットワークが軽いという強みがあるので、それを防災活動に生かしていこう」、「何か行動をおこすには、やりたいという気持ちを強く持つことが大事」などの様々な意見がでて、互いに刺激し合う有意義なイベントになり、今後の活動についての学生たちの宣言も行われました。

今後、この活動が、より発展的により活動的に継続し、地域の人たちとの連携による防災活動に発展していくことを期待しています。



図1 「防災カフェ」と「学生大防災会議2021」のチラシ

各種実績一覧

■講演会等リスト

横田崇

- ・あいぼう会防災セミナー、「会社と一緒に取り組み家具固定キャンペーンについて」、オンラインセミナー (Zoom), 2020年6月15日
- ・愛知県家具固定推進員研修,「皆と一緒に取り組み家具固定キャンペーン:まずは、出来ることから」、書面開催セミナー, 2020年10月
- ・AITオープンカレッジ,「最近の災害の特徴とその対策」, 愛工大本山キャンパス, 2020年11月7日

入倉孝次郎

- ・2021年京都大学地球物理学教室同窓会“京大知球会”講演会, 2019年度叙勲記念講演 「- 動震動研究50年を振り返って- 大地震による大災害を軽減するための強震動研究 Strong Motion Studies for Reducing Catastrophic Damage from Giant Earthquakes -」 オンライン開催, 2021年2月20日

平川一臣

- ・あいぼう会防災セミナー「南海トラフの津波と地震-津波堆積物からの考察」, 愛知工業大学, 2020年11月16日
- ・窓の会「南海トラフの超巨大地震・津波, 知見・証拠を整理する」, 文化サロン汽水域 (豊橋市), 2020年3月15日

小池則満

- ・かんばら女性学級,「緊急地震速報で命を守る」, 静岡市蒲原生涯学習交流館, 2020年8月19日
- ・先端科学技術入門,「巨大災害への備え~避難について考える~」, 愛知工業大学名電高等学校, 2020年10月7日
- ・名古屋環境大学共有講座,「緊急地震速報と地域防災」, 大須コミュニティセンター, 2020年11月25日
- ・学校防災シンポジウム2020,「愛知県における洪水避難訓練実施事例」, 愛知工業大学web開催, 2020年12月5日
- ・総合的学習出前授業,「緊急地震速報で命を守る」, 愛知県立鶴城丘高等学校, 2020年12月8日

奥川雅之

- ・表協青年経営技術懇話会 (SYMTEC),「人がいけない場所を調査する:調査点検ロボット Scott」, 2020年9月7日
- ・令和2年度後期講座,「ロボット技術を活用した防災・減災とは?」, 名古屋市南生涯学習センター, 2021年2月17日

久島桃代

- ・あいぼう会防災セミナー「場所を分かち合い・声を聴く-その可能性と課題 (陸前高田市調査報告)」, 愛知工業大学, 2020年7月20日

廣内大助

- ・信州大学附属学校園職員研修会,「震災から学ぶ学校防災の取り組み」, 信州大学教育学部, 2020年7月1日

- ・長野市教育センター研修講座,「学校は災害にどう備えるか～防災管理と防災教育～」, 長野市教育センター, 更科教育館, 2020年7月17日
- ・長野養護学校職員研修,「学校は災害にどう備えるか」, 長野養護学校, 2020年8月4日
- ・わたしがつくる つぎの防災・減災2020シンポジウム,「つぎの防災・減災にむけて何を知る／考える?」, 2020年10月10日
- ・明南小学校職員研修,「学校・校区の被災可能性を知り備えよう」, 2020年10月30日
- ・信州大学出前講座,「水害はどこで起こるのか—地図からわかる低地の水害予測—」, 東御市中央公民館, 2020年11月7日
- ・熊本大学デジタルアーカイブオンラインシンポジウム,「災害の記録をどう受け継ぐか～2014年長野県神城断層地震震災アーカイブの取り組み～」, オンライン開催, 2020年11月21日
- ・防災減災セミナー,「白馬で知る・学ぶ「いま」の防災減災」防災減災講話, スノーピーク白馬イベントエリア(屋外), 2020年11月22日
- ・信州大学出前講座,「水害はどこで起こるのか—地図からわかる低地の水害予測—」, 松代地区住民自治協議会, サンホールマツシロ, 2020年12月4日
- ・第5回学校防災シンポジウム2020「コロナ禍における学校防災」, オンライン開催, 2020年12月5日
- ・信州大学出前講座,「水害はどこで起こるのか—地図からわかる低地の水害予測—」, 吉田地区住民自治協議会, 吉田公民館, 2020年12月11日
- ・穂高東中学校避難訓練講演会,「災害にどう備えるのか?」, 穂高東中学校, 2020年12月18日
- ・あいぼう会第7回オンラインセミナー,「2019年台風19号による千曲川流域の洪水被害」, オンライン開催, 2020年12月21日
- ・小布施町住民防災講座,「小布施の自然災害を知り備える—令和元年台風19号災害を踏まえて」, 小布施まちづくり委員会, 北斎ホール, 2021年2月28日
- ・富士見町建設工事効果促進事業防災啓発セミナー,「富士見町の自然災害に備える」, 富士見町役場建設課, 2021年3月14日

服部亜由未

- ・令和元年度重要文化財馬場家住宅企画展「明治初めの旅事情～道中日記録を手がかりに～」講演会, 明治初期の旅の楽しみ方～馬場家夫婦の旅を追って～, 重要文化財馬場家住宅, 2019年10月6日

森田匡俊

- ・笠松町防災講演会,「地震・洪水のメカニズムと自助・共助」, 笠松町中央公民館, 2020年11月28日
- ・学校防災シンポジウム2020,「横浜市における児童引き渡し訓練事例」, 愛知工業大学web開催, 2020年1月5日

橋本操

- ・学校防災シンポジウム2020,「岐阜県における洪水避難訓練実施事例」, 愛知工業大学web開催, 2020年12月5日
- ・6年防災学習,「町歩き」, 愛知県岡崎市立常磐東小学校, 2020年11月24日
- ・6年防災学習,「町歩き(米河内町周辺)のまとめ」, 愛知県岡崎市立常磐東小学校, 2020年12月8日

安江健一

- ・健康・長寿コンシェルジュ・サービス元気プログラム事業(まちあるき企画),「ブラとやま」, オンライン,

2020年5月17日, 6月7日, 6月21日

- ・健康・長寿コンシェルジュ・サービス元気プログラム事業(まちあるき企画),「ブラとやま」,富山中心市街地, 2020年7月19日, 9月20日, 11月15日, 2021年2月7日
- ・御嵩町防災リーダー養成講座,「御嵩町の地形の成り立ち」,御嵩町防災コミュニティセンター, 2020年8月16日
- ・岐阜県立坂下高等学校「総合的な探究の時間」,「阿寺断層に関する講義・フィールドワーク・案内図製作」,岐阜県立坂下高等学校, 2020年9月14日
- ・加子母教育の日(事前実習),「活断層について学び、伝えよう」,加子母小学校, 2020年11月13日
- ・上越市防災士養成講座,「地震・津波による災害」,ユートピアくびき「希望館」, 2020年11月14日
- ・飛騨市における防災教育,「飛騨市の活断層」,飛騨市立古川中学校, 2020年11月17日
- ・岐阜県立坂下高等学校「総合的な探究の時間」,「阿寺断層に関する案内板への講評」,オンラインおよび文章, 2020年11月27日
- ・加子母教育の日,「活断層について学び、伝えよう」,オンライン, 2020年11月29日
- ・応用地質学講座,「阿寺断層についての講演・巡検」,加子母総合事務所および中津川市内, 2020年12月4日
- ・防災Café ことはじめ第1弾,「富山の活断層を学び伝えよう!!」,オンライン, 2020年12月20日
- ・採用イノベーション・スクール,「話しやすい場づくりに向けて～新たなインターンシップのデザインを事例に～」,オンライン, 2021年1月14日
- ・くれはNAVI養成講座,「呉羽山周辺の地形と地質のみどころ」,富山市民族民芸村および呉羽山周辺, 2021年2月6日
- ・飛騨市防災リーダー養成講座,「飛騨市の生い立ちと地形」,飛騨市古川町公民館, 2021年2月7日
- ・緑の里講座,「自然災害について学び・深め・伝えよう～砺波平野の地震災害とその防災に向けて～」,城端伝統芸能会館じょうはな座, 2021年3月18日

■TV出演・新聞記事リスト

平川一臣

- ・「防災功労で総理大臣表彰 住民向け講座やマップづくり 豊橋の平川さんに栄誉」,中日新聞, 2020年9月11日
- ・「堆積物が導いた津波予測 北海道～東北M9超地震で最大29.7メートル 開発逃れた地層 広域を調査」,朝日新聞, 2020年4月30日
- ・「豊橋市作製「防災コミュニティマップ作成の手引」増刷・全戸配布へ本腰を 北大名誉教授・平川さん呼びかけ」東日新聞, 2020年3月10日
- ・「備えの大切さや家を守る 東日本大震災から10年, 教訓を踏まえ想定される南海トラフの対応」東日新聞, 2020年3月16日

小池則満

- ・「「シシ垣」に注目を 貴重な地域資源 今こそ再評価」,中部経済新聞, 2020年4月7日

倉橋奨

- ・「9月1日は防災の日 あいち100万人シェイクアウト訓練」,週間愛ちっち(東海テレビ), 2020年8月20日21:54~22:00

廣内大助

【新聞】

- ・「台風19号 サイトで伝承」, 読売新聞, 2020年7月3日
- ・「記録継承を『災害アーカイブ展』県と信大 県内各地で来月9日から」, 信濃毎日新聞, 2020年9月29日
- ・「災害を「自分事」として－「アーカイブ展」長野市役所からスタート」, 信濃毎日新聞, 2020年10月10日
- ・「災害アーカイブ展（長野市役所）」週刊長野, 2020年10月10日
- ・「わたしがつくる つぎの防災減災2020」, 信濃毎日新聞, 2020年10月11日
- ・「デジタルアーカイブ公開－県と信州大 災害の記憶 地域で共有を」, 中日新聞, 2020年10月13日
- ・「災害アーカイブ展（長野市役所）」, 読売新聞, 2020年10月13日
- ・「信濃町と飯綱町に活断層－信大などグループ新たに発見」, 信濃毎日新聞, 2020年10月17日
- ・「加茂小学校防災教育授業」, 中日新聞, 2020年10月23日
- ・「台風19号の教訓 災害の風化どう防ぐか」, 読売新聞, 2020年10月30日
- ・「アーカイブ展（伊那市役所）」, 長野日報, 2020年11月12日
- ・「アーカイブ展（伊那市役所）」, みのわ新聞, 2020年11月12日
- ・「長野北部地震から6年 記憶つなぐ看板設置（白馬村）・白馬村防災イベント開催予告」, 中日新聞, 2020年11月20日
- ・「アーカイブ展（白馬・小谷）」, 中日新聞, 2020年11月21日
- ・「白馬村長野北部地震6年防災考える・防災イベント開催」, 中日新聞, 2020年11月23日
- ・「伊那・東部中生、信大の協力で独自の防災マップ作り」, 信濃毎日新聞, 2020年12月5日
- ・「アプリで危険情報共有－伊那市東部中2年2組防災マップ作り」, 長野日報, 2020年12月5日
- ・「要支援者に配慮 避難所設備見学会」, 市民タイムス, 2021年3月7日
- ・「災害時指定避難所信大附属松本小 断水対応トイレなど整備 24日に見学会や講演」, MGプレス, 2021年3月10日
- ・「震災後 5弱以上多発」, 読売新聞, 2021年3月12日
- ・「附属小 安心の避難所に－断水時も使える水洗トイレ」, 市民タイムス, 2021年3月25日

【テレビ】

- ・「新入生に向けた減災のポイント～大地震に備え、通学路で気を付けるべき点」, NBS長野放送 ミニ番組「減災家族」, 2020年4月18日（15：55～16：00）
- ・「災害の記憶を継承 記録公開へ」, NHKニュースおはよう日本, 2020年5月12日（6：55～7：00）
- ・「災害の記憶を継承 記録公開へ」, NHKニュースおはよう日本, 2020年5月12日（7：55～8：00）
- ・「災害の記憶を継承 記録公開へ」, NHK長野放送局お昼のニュース, 2020年5月12日（12：15～12：20）
- ・「災害アーカイブ連携で初会議」, NHK長野 イブニング信州, 2020年8月31日（18：00～）
- ・「台風1年を前に災害アーカイブ展」, NHK長野放送局, 2020年10月9日
- ・「災害の記憶 台風19号の『アーカイブ展』始まる 防災意識高めて」, NBS長野放送, 2020年10月10日
- ・「台風19号災害を振り返る『災害アーカイブ展』」, SBCニュースワイド, 2020年10月10日（17：16～17：30）
- ・「県と信大『災害アーカイブ展』」, 長野ケーブルテレビ INCながのニュース, 2020年10月12日
- ・「通学路の減災ポイント」, NBS長野放送ミニ番組「減災家族」, 2020年10月22日
- ・「加茂小学校防災教育授業」, NHK長野放送局お昼のニュース, 2020年10月22日（12：15～12：20）
- ・「神城断層地震から6年 風化防止の取り組み」, TSBテレビ信州 news every, 2020年11月23日（17：53～）

19:00)

- ・「神城断層地震伝える看板設置 神城断層地震の被害 様子を看板で読み取り」, NHKニュースおはよう日本, 2020年11月24日 (6:55~7:00)
- ・「信大 避難所に指定の附属小学校に少量の水で流せるトイレ導入」, NHK長野放送局, 2021年3月24日
- ・「附属小学校の避難所設備見学会」, SBCひるおび! JNNニュース, 2021年3月25日 (11:49-52)
- ・「附属小学校の避難所設備見学会」, SBCニュースワイド, 2021年3月25日 ((18:15-55)

【ラジオ】

- ・「あなたを守る防災知恵袋」, SBCラジオ ミックスプラス, 2020年11月3日 (13:25~)
- ・「神城断層地震から6年…デジタルアーカイブについて+看板」, SBCラジオ ミックスプラス, 2020年12月1日 (13:25~)
- ・「防災用品としてのキャンプ用品の活用」, SBCラジオ ミックスプラス, 2020年12月8日 (13:25~)
- ・「伊那東部中学校防災学習フィールドワーク」, 伊那市有線放送, 2020年12月8日 (20:45~)
- ・「伊那東部中学校防災学習フィールドワーク」, 伊那市有線放送, 2020年12月12日 (6:40~)
- ・「清野小学校防災教育」, SBCラジオ ミックスプラス, 2021年1月5日 (13:25~)

森田匡俊

- ・「地図は嘘つき!?', 岐阜新聞「真学塾」, 2020年9月27日

橋本操

- ・「与論島のクラスター考察 「地理」2月号 集落点検, ハブ特集も」, 南海日日新聞, 2021年2月28日

安江健一

- ・「未明に地震 南砺市で震度3 庄川断層帯が関係か」, KNBnews every., 2020年9月2日 18:15~18:55 (約3分)
- ・「防災 高校生が地元の活断層学」, NHKニュース, 2020年9月14日 12:15~12:20 (約1分)
- ・「2日未明の地震 南砺市で震度3」, KNBweb, 2020年9月2日
- ・「高校生が阿寺断層を学ぶ」, NHK NEWS WEB, 2020年9月14日
- ・「太江断層構造に興味津々」, 岐阜新聞, 2020年12月8日
- ・「富大生、飛騨古川で断層調査 地元高校生も現場体験」, 中日新聞, 2020年12月8日
- ・「太江断層を掘削調査 古川吉城高生と富山大生」, 中日新聞, 2020年12月10日
- ・「吉城高生が活断層調査 富山大学と合同で」, 飛騨市民新聞, 2020年12月12日
- ・「まちづくり提言書 市長に提言書提出」, 神岡新聞, 2021年1月28日
- ・「神岡町の活性化策議論 まちづくり検討会議 飛騨市に提言書」, 岐阜新聞, 2021年1月29日
- ・「神岡のまちづくり提言 市長に鉾山資料館改修など要望」, 中日新聞, 2021年1月29日

学防ラボ

- ・「愛知の大学生が防災シンポジウム」, NHK NEWS WEB, 2021年3月10日
- ・「『防災担い手へ』オンライン会議学生ら90人」, 読売新聞, 2021年3月11日
- ・「防災力を高める『大学生の強み』『地域に対する壁』愛知工業大生らが『学生大防災会議2021』開催」, 豪田ヨシオ部, 2021年3月11日
- ・「学生ら90人防災活動報告 愛工大ラボ開催オンラインで」, 毎日新聞, 2021年3月11日

■各種委員

横田崇

- ・内閣府本府政策参与
- ・気象庁南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会委員及び東海地震強化地域判定会委員
- ・愛知県地震対策有識者懇談会委員
- ・豊田市防災会議委員
- ・豊田市国民保護協議会委員
- ・瀬戸市防災会議委員
- ・大府市防災会議アドバイザー
- ・災害情報学会副会長
- ・災害情報学会理事

入倉孝次郎

- ・文部科学省地震調査推進本部専門委員
- ・内閣府日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会委員
- ・内閣府相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動検討会委員

平川一臣

- ・北海道防災会議地震火山対策部会
- ・北海道地震専門委員会津波想定設定ワーキンググループ
- ・内閣府日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会

建部謙治

- ・日本インテリア学会評議員
- ・日本建築学会代議員

中村吉男

- ・沖縄県恩納村キャンプハンセン周辺障害防止対策事業 安富祖ダム建設技術検討委員会委員（2014.4～）
- ・地盤工学会 社会実装に向けた新しい地盤環境管理と基準に関する研究委員会委員（2015.6～）
- ・地盤工学会 東北支部 資源循環研究委員会 石炭灰有効利活用小委員会委員（2015.8～）
- ・防衛省 東富士地区ダム技術検討委員会委員（2016.11～）
- ・浜松市廃棄物処理施設の構造に関する専門委員（土木工学）（2020.3～）

中村栄治

- ・大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会委員（精密工学会）

小池則満

- ・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター
- ・大学コンソーシアムせと 協議委員

- ・大府市都市計画審議会 委員
- ・内海山海防災連絡協議会 顧問
- ・矢作川水系流域委員会 委員

奥川雅之

- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会（A-TS10-40）」幹事
- ・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会（A-TS10-39）」委員
- ・計測自動制御学会「システムインテグレーション部門講演会」プログラム委員
- ・「ロボティクスシンポジア」プログラム委員
- ・RoboCup Rescue Robot League Technical Committee Member
- ・World Robot Summit インフラ・災害対応分野競技委員会委員
- ・一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティ理事
- ・レスキューロボットコンテスト実行委員会実行委員長
- ・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
- ・TPIPユーザーコミュニティ主査

赤堀良介

- ・国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 豊川水系流域委員会委員（2018～）
- ・国土交通省中部地方整備局水文観測品質照査検討会 委員（2017～）
- ・国土交通省中部地方整備局水文高度化検討会 委員（2015～）
- ・国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所 庄内川リバーカウンセラー（2015～）
- ・土木学会水工学委員会環境水理部会 オブザーバー（2015～）
- ・豊田市天然アユ生態調査実行委員会 アドバイザー（2016～）
- ・長久手市香流川整備計画推進委員会 委員（2017～）
- ・国土交通省中部地方整備局水文観測品質照査検討会 委員（2017～）

倉橋奨

- ・公益社団法人土木学会 調査研究部門地震工学委員会 地震防災技術普及小委員会 委員

久島桃代

- ・とよた防災啓発推進協議会役員

廣内大助

- ・日本活断層学会理事（～2020.5迄）
- ・日本活断層学会渉外・広報委員会委員長（～2020.5迄）
- ・日本活断層学会渉外・広報委員会委員
- ・日本地理学会災害対応委員会地域拠点委員
- ・長野県地理学会副会長
- ・長野県教育委員会学校安全総合支援事業学校防災アドバイザー

- ・飯綱町学校防災防犯推進委員会顧問
- ・長野市防災基金運営委員会委員長
- ・国土交通省国土地理院 全国活断層帯情報整備検討委員会委員
- ・国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員
- ・公益財団法人 地震予知総合研究振興会 活断層の位置・形状検討委員会 招聘専門家
- ・新修豊田市史総集編集部執筆協力員（自然班）
- ・名古屋市市政資料館調査協力員
- ・NPO法人レスキューストックヤード有識者パートナー
- ・独）産業技術総合研究所地質調査総合センター（活断層・火山研究部門）客員研究員
- ・愛知工業大学地域防災研究センター 客員研究員

服部亜由未

- ・新修豊田市史編さん執筆協力委員（近代部会）
- ・長久手市文化財保護審議会委員

森田匡俊

- ・日本地理教育学会 編集委員

安江健一

- ・全国活断層帯情報整備検討委員会委員
- ・科学技術専門家ネットワーク・専門調査員
- ・京都大学防災研究所「自然災害研究協議会」委員
- ・国立研究開発法人日本原子力研究開発機構研究嘱託
- ・国立研究開発法人産業技術総合研究所客員研究員
- ・愛知工業大学地域防災研究センター客員研究員
- ・日本地質学会代議員
- ・日本活断層学会理事
- ・日本活断層学会2020年度秋季学術大会実行委員会委員長
- ・日本地球惑星科学連合プログラム委員会委員
- ・富山応用地質研究会幹事長
- ・特定課題推進員採用試験研究業績審査委員会委員
- ・令和版神岡のまちづくり検討会議委員座長
- ・立山町学校跡地利活用地形提案審査委員会委員長
- ・呉羽丘陵フットパス利活用懇話会員
- ・特定非営利活動法人まちづくりスポット理事
- ・加子母教育協議会理事
- ・富山湾アカデミーアライアンス カメラスタンド設置プロジェクト実行委員

■外部資金獲得状況

横田崇

- ・愛知工業大学プロジェクト研究A, 「地震動到着直前の緊急対応と発災後の応急対応を支援する総合地震防災システムの構築」, 横田崇, 倉橋奨, 落合鋭充

小池則満

- ・小池則満, 「海面利用実態を考慮した遊漁船業の津波防災計画策定手法の開発」800,000円, 科学研究費助成事業 基盤研究C, 2019年4月～2021年3月

奥川雅之

- ・奥川雅之, 木村哲也, 大坪義一, 大金一二, 衣笠哲也, 「可変コンプライアンスによる適応クローラロボットのリアルタイム環境適応能力発現」2,405,000円 (2020年度), 科学研究費助成事業 基盤研究 (C), 2020年4月～2023年3月

山本義幸

- ・山本義幸, 「住民が求める景観とは? -人工知能を活用した景観形成支援システムで明らかにする」78万円, 科学研究費・基盤研究C, 2019年4月～2022年3月

赤堀良介

- ・赤堀良介・原田守啓・川村里実・岡本隆明, 「マルチスケールにおける細粒土砂動態の非平衡性をもたらす土砂堆積現象の解明」1,100,000円, 科学研究費助成事業, 基盤研究 (C), 2019-2021

倉橋奨

- ・倉橋奨 (代表), 「内陸地震における長周期パルスの地震動予測手法の開発」210万円, 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C), 2020年-2023年

久島桃代

- ・研究代表者 熊谷圭知・分担者 久島桃代, 「『被災地』陸前高田の場所再構築と地理学—感情・身体・ジェンダーと風土の視点から」4,680,000円 (2020年度)

廣内大助

- ・研究代表者 廣内大助, 「断層活動の多様性を考慮した活断層地震予測モデルの再構築」, 5,070千円 (2020年度), 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B), 2019年4月～2022年3月
- ・研究代表者 竹内裕希子・分担 廣内大助, 「地理的素材・手法を取り入れた総合的防災・減災教育プログラム開発」, 1,430千円 (2020年度), 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C), 2019年4月～2022年3月
- ・研究代表者 松多信尚・分担者 廣内大助, 「完新世の地形発達から明らかにする南海トラフ地震の多様性」, 3,770千円 (2020年度), 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B), 2018年4月～2022年3月
- ・研究代表者 松多信尚・分担 廣内大助, 「外的条件の変化による活断層の活動性への影響」, 5,070千円 (2020年度), 日本学術振興会科学研究費助成事業 挑戦的研究 (萌芽), 2019年4月～2022年3月

- ・研究代表者 竹下欣宏・分担者 廣内大助,「火山周辺地域における不明瞭活断層の認定と定量的活動性評価法の構築」, 2,340円 (2020年度), 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究 (C), 2020年4月~2023年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「令和元年台風19号千曲川水害デジタルアーカイブ構築・利活用事業」, 3,000千円, (一社)北陸地域づくり協会 国土の利用・整備・保全に関する資料等収集整理事業, 2020年5月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「震災デジタルアーカイブを活用した地域防災コミュニティモデルの構築」, 800千円, (公財)北野生涯教育振興会2020年度生涯教育研究助成金, 2020年11月~2021年10月
- ・研究代表者 廣内大助,「タブレット端末を活用した防災地域学習に関わる試行的研究」, 150千円, 愛知工業大学 地域防災研究センター, 2020年6月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「利活用を踏まえた震災アーカイブの自立的運用モデルに関する研究」, 600千円, 国立大学法人東北大学災害科学国際研究所①災害アーカイブ学, 2020年6月~2021年3月
- ・研究代表者 吉田孝紀・分担 廣内大助,「中部山岳域における防災力の強化に向けた自然災害研究:特に近過去の地殻変動履歴の解明と地域コミュニティへの貢献」, 2,000千円, 信州大学山岳科学研究拠点_重点研究, 2020年5月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「令和元年台風19号による千曲川水害被災地域における住民の災害対応とその差異の解明」, 200千円, 信州大学地域防災減災センター2020年度「信州における防災減災に関する支援プロジェクト」, 2020年12月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「2014年長野県神城断層地震震災アーカイブの構築とその利活用に関する事業」, 2,200千円, 白馬村・小谷村共同研究, 2020年4月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「令和元年千曲川水害における避難所トイレの状況と公衆衛生に関する調査ならびに附属学校園における実証試験等に関する研究」, 339.9千円, (株)LIXIL共同研究, 2020年4月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「『猪の満水』(令和元年東日本台風災害) デジタルアーカイブ事業」, 9,399千円, 長野県共同研究, 2020年7月~2021年3月
- ・研究代表者 廣内大助,「Web-GISとタブレット用地図アプリを用いた、防災教育・地域学習に関わる共同研究」, 0円, 益城町教育委員会共同研究, 2020年11月~2021年3月

服部亜由未

- ・池口明子・田和正孝・吉田国光・前田洋介・服部亜由未・横山貴史,「沿岸漁場における順応的環境ガバナンスの地理学的研究」2,900,000円, 科学研究費助成事業 基盤研究 (B), 2016年4月~2020年3月
- ・服部亜由未,「近代北海道におけるニシン漁家・漁獲地域の危機対応に関する研究」700,000円, 科学研究費助成事業 若手研究 (B), 2017年4月~2021年3月
- ・野中健一・Luiza De Sousa, 池口明子・小野英介・崎田誠志郎・竹中千里・服部亜由未・橋本操・溝田浩二・宮川修一・Josef de Beer・Donnavan Kuger・Cathy Dzerefos・Schalk Raarh,「日本から学ぶ南アフリカの教員の専門性向上のための有用昆虫利用の在来知識活用の研究」, 2,337,500円, 日本学術振興会南アフリカとの共同研究 (NRF), 2018年4月~2020年3月
- ・石川寛・斎藤夏来・池内敏・秋山晶則・服部亜由未,「木曾三川流域における治水関係文書の高度活用に関する研究」基盤研究 (B), 12,400,000円, 2019年4月~2023年3月

森田匡俊

- ・小野映介・片岡香子・佐藤善輝・小岩直人・森田匡俊,「地形発達過程を考慮した自然災害発生リスクの評価」, 250,000円, 2018年度科学研究費助成事業 基盤研究 (B), 2018年4月~2022年3月

- ・ 森田匡俊・中尾治子・大森裕子・柏木良明, 「新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい避難様式」に関する研究」, 3,000,000円, 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(笠松町), 2020年12月~2022年3月

橋本操

- ・ 野中健一・厚香苗・小野英介・橋本操・湯澤規子・吉澤樹理, 挑戦的研究(開拓)「在来知識を再構築し生業道具を保存活用するための統合的研究」2,600,000円, 日本学術振興会, 2019年4月~2023年3月

安江健一

- ・ 廣内大助・竹下欣宏・安江健一・松田信尚・杉戸信彦・藤田奈津子・石山達也, 「断層活動の多様性を考慮した活断層地震予測モデルの再構築」5,070,000円, 文部科学省 科学研究費補助金基盤研究(B), 2019年4月~2022年3月
- ・ 安江健一・丹羽正和・川崎一雄・横山立憲, 「礫層の堆積年代に関する効果的な測定法の構築」1,400,000円, 文部科学省 科学研究費補助金挑戦的研究(萌芽), 2019年4月~2022年3月
- ・ 安江健一・立石良, 「岐阜県飛騨市内における活断層調査研究」3,635,280円, 富山大学と飛騨市による令和元年度共同研究, 2020年6月~2021年3月

長島雄毅

- ・ 長島雄毅, 「近代移行期の大都市周辺地域における人口移動」260,000円, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究活動スタート支援, 2019年8月~2021年3月

業績リスト

■論文（審査付）

横田崇

- ・安本真也, 横田崇, 牛山素行, 石黒聡士, 関谷直也, 平成30年7月豪雨における西予市での住民の避難行動と避難の意思決定構造, (2020), 自然災害科学, 第39巻, pp.71-85.
- ・安本真也, 横田崇, 牛山素行, 石黒聡士, 関谷直也, 平成30年7月豪雨における災害情報と住民の避難行動, (2020), 東京大学紀要, 第39巻, pp.71-85.

入倉孝次郎

- ・ Luis A. Dalguer, Yoshimitsu Fukushima, Kojiro Irikura, Changjiang Wu & Philippe, Philippe Renault, Best Practices in Physics-based Fault Rupture Models for Seismic Hazard Assessment of Nuclear Installations: Issues and Challenges Towards Full Seismic Risk Analysis, Pure and Applied Geophysics volume 177, p1845–1853 (2020)
- ・ Ken Miyakoshi, Kazuhiro Somei, Kunikazu Yoshida, Susumu Kurahashi, Kojiro Irikura & Katsuhiko Kamae, Scaling Relationships of Source Parameters of Inland Crustal Earthquakes in Tectonically Active Regions, Pure and Applied Geophysics volume 177, p1917–1929 (2020)
- ・ L. A. Dalguer, H. Wu, Y. Matsumoto, K. Irikura, T. Takahama & M. Tonagi, Development of Dynamic Asperity Models to Predict Surface Fault Displacement Caused by Earthquakes, Pure and Applied Geophysics volume 177, p1983–2006 (2020)
- ・ Naoto Inoue, Naoko Kitada, Noriyuki Shibuya, Masashi Omata, Tsutomu Takahama, Masao Tonagi & Kojiro Irikura, Probabilistic Evaluation of Off-Fault Displacements of the 2016 Kumamoto Earthquake, Pure and Applied Geophysics volume 177, p2007–2019 (2020)
- ・ Kojiro Irikura, Susumu Kurahashi & Yasuhiro Matsumoto, Extension of Characterized Source Model for Long-Period Ground Motions in Near-Fault Area, Pure and Applied Geophysics volume 177, p2021–2047 (2020)
- ・ Percy Galvez, Anatoly Petukhin, Kojiro Irikura & Paul Somerville, Dynamic Source Model for the 2011 Tohoku Earthquake in a Wide Period Range Combining Slip Reactivation with the Short-Period Ground Motion Generation Process, Pure and Applied Geophysics volume 177, p2143–2161 (2020)
- ・ A. Pitarka, R. Graves, K. Irikura, K. Miyakoshi & A. Rodgers, Kinematic Rupture Modeling of Ground Motion from the M7 Kumamoto, Japan Earthquake, Pure and Applied Geophysics volume 177, p2199–2221 (2020)
- ・ Kazuhiro Somei, Ken Miyakoshi, Kunikazu Yoshida, Susumu Kurahashi & Kojiro Irikura, Near-Source Strong Pulses During Two Large MJMA 6.5 and MJMA 7.3 Events in the 2016 Kumamoto, Japan, Earthquakes, Pure and Applied Geophysics volume 177, p2223–2240 (2020)
- ・ My Thanh Thi Tran, Vung Van Vi, Hiroe Miyake, Kojiro Irikura & Duan Van Bui, Empirical Green's Function Simulations Toward Site-Specific Ground Motion Prediction in Vietnam, Pure and Applied Geophysics volume 177, p2281–2298 (2020)

平川一臣

- ・ Neng-Ti Yu, Jiun-Yee Yen I-Chin Yen, Kazuomi Hirakawa, Chao-Ming Chuang: Tsunami deposits and recurrence on a typhoon-prone coast of northern Taiwan from the last millennium. *Quaternary Science Reviews*, Vol.245, pp.1-19 (2020.8)

建部謙治

- ・ 建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫, 野澤英希, 「特別養護老人ホームにおける災害意識と災害対応の地域特性」, *日本建築学会計画系論文集*, Vol.86, No.783, pp.1398-1908 (2021年6月)
- ・ 建部謙治, 井出政芳, 加藤憲, 野澤英希, 「地震発生時の停電を想定した椅子座位姿勢の実験における高齢男性への地震動の影響、地震動による高齢者への生理・心理学的影響に関する実験的研究 その5」, *日本建築学会計画系論文集*, Vol.86, No.781, pp.793-801 (2021年3月)
- ・ 野澤英希, 恒川和久, 建部謙治, 「平成期における廃校の発生に影響を与える要因に関する研究, 愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の事例を通して」, *日本建築学会計画系論文集*, Vol.85, No.777, pp.2395-2405 (2020年11月)
- ・ 建部謙治, 井出政芳, 加藤憲, 野澤英希, 「姿勢の違いによる高齢男性への地震動の影響分析」, *日本建築学会計画系論文集*, Vol.85, No.775, pp.1887-1895 (2020年9月)

中村栄治

- ・ 中村栄治, 小池則満: 地下駅や地下街との往來を考慮した百貨店における避難シミュレーション, *土木学会論文誌F6 (安全問題)*, Vol.76, No.2, pp.I_175-I_183, 2020.

小池則満

- ・ 小池則満, 橋本操: 地域資源としての利活用に向けたシシ垣の多面的役割に関する研究, *都市計画論文集*, Vol.55 (3), pp.1180-1188 (2020.10)
- ・ 小池則満, 橋本操, 服部亜由未, 森田匡俊: 共同漁業権の設定状況を考慮した漁船の津波避難方法に関する研究, *土木学会論文誌F6 (安全問題)*, Vol.76 (2), I_43-I_50 (2020.11)
- ・ 中村栄治, 小池則満: 地下駅や地下街との往來を考慮した百貨店における避難シミュレーション, *土木学会論文誌F6 (安全問題)*, Vol.76 (2), I_175-I_183 (2020.11)

奥川雅之

- ・ H. Miura, A. Watanabe, M. Okugawa, T. Miura and T. Koganeya, Plant Inspection by Using a Ground Vehicle and an Aerial Robot: Lessons Learned from Plant Disaster Prevention Challenge in World Robot Summit 2018, *Advanced Robotics*, 34 (2), pp.104-118 (2020.1)
- ・ 渡邊彩夏, 三浦洋靖, 奥川雅之, 畑中錦也, 火災救助活動におけるロボット技術活用を想定したシナリオ検証, *日本ロボット学会誌*, 38 (7), pp.651-656 (2020.9)

山本義幸

- ・ 著者名: 論文タイトル, 雑誌等名, 巻 (号), ページ (年.月)
- ・ 松下孝星・古井良典・後藤隆二・山本義幸・中村豪・中村栄治: ICPによるレールの点群の位置合わせにおける位置の初期値特性, *第24回鉄道工学シンポジウム論文集*, pp.77-84 (2020.7)

- ・山本義幸・平林大輝：簡易脳波計を用いた地理空間情報の動画に対する興味を判別するための脳波解析，応用測量論文集 31, pp.3-12 (2020.7)
- ・山本義幸：小型カメラで近接撮影されたアスファルト舗装画像に対する深層学習によるひび割れ判別：特徴マップの可視化によるアプローチ，応用測量論文集 31, pp.123-132 (2020.7)

赤堀良介

- ・原田守啓，赤堀良介，武田正太郎：洪水時のウォッシュロード濃度の簡易計測に基づく土砂再堆積予測，河川技術論文集，第26巻，pp.585-590 (2020.6)

服部亜由未

- ・小池則満，森田匡俊，橋本操，服部亜由未：海上浮体構造物の分布状況に基づく津波避難計画策定手法の提案，土木学会論文集B3 (海洋開発)，75 (2)，I_791-I_796 (2019.10)

森田匡俊

- ・小池則満，橋本操，服部亜由未，森田匡俊：共同漁業権の設定状況を考慮した漁船の津波避難方法に関する研究，土木学会論文集F6 (安全問題)，Vol.76 (2)，I_43-I_50 (2020.11)

橋本操

- ・小池則満，橋本操：地域資源としての利活用に向けたシシ垣の多面的役割に関する研究，都市計画論文集，Vol.55 (3)，pp.1180-1188 (2020.10)
- ・小池則満，橋本操，服部亜由未，森田匡俊：共同漁業権の設定状況を考慮した漁船の津波避難方法に関する研究，土木学会論文集F6 (安全問題)，Vol.76 (2)，I_43-I_50 (2020.11)

安江健一

- ・丹羽正和，雨宮浩樹，代永佑輔，小北康弘，安江健一，岩野英樹，檀原徹，平田岳史：北海道北部，幌延地域の第三系～第四系に狭在するテフラのジルコン U-Pb およびフィッショソ・トラック年代，地質学雑誌，第126巻，pp.267-283 (2020.5)

三浦洋靖

- ・H. Miura, A. Watanabe, M. Okugawa, T. Miura and T. Koganeya, Plant Inspection by Using a Ground Vehicle and an Aerial Robot: Lessons Learned from Plant Disaster Prevention Challenge in World Robot Summit 2018, Advanced Robotics, 34 (2), pp.104-118 (2020.1)
- ・渡邊彩夏，三浦洋靖，奥川雅之，畑中錦也，火災救助活動におけるロボット技術活用を想定したシナリオ検証，日本ロボット学会誌，38 (7)，pp.651-656 (2020.9)

■論文 (審査なし、研究報告・紀要集)，その他 (報告書など)

横田崇

- ・横田崇，災害への備え－LCPのすすめ－ (風水害編)，大府商工会議所会報，vol.222，pp.2-3，2020年9月
- ・横田崇，災害への備え－LCPのすすめ－ (地震編)，大府商工会議所会報，vol.223，pp.6-7，2020年10月

平川一臣

- ・平川一臣：私の津波堆積物発見・研究史論文，季刊考古学，第154号）， pp.22-29（2021.2）

建部謙治

- ・建部謙治，田村和夫，高橋郁夫，野澤英希，内藤克己，「医療福祉施設を含めた企業を対象とした防災対策 高齢者福祉施設の上階緊急搬送避難補助具の検討」，愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書，vol.16， pp.34-37（2020年9月）

奥川雅之

- ・奥川雅之，レスキューロボットコンテスト - やさしさの深化を通じた科学技術の裾野拡大とロボット技術の向上 - ，日本ロボット学会誌，Vol.38，No.9， pp.797-800（2020.11）

廣内大助

- ・廣内大助，竹下欣宏，富樫均，近藤洋一，花岡邦明，関めぐみ，中部山岳域における防災力の強化に向けた自然災害研究：長野県北部，信濃町と飯綱町で新たに発見された活断層，信州大学先鋭領域融合研究群山岳科学研究拠点2020年度報告要旨集，18-24.

服部亜由未

- ・服部亜由未：重要文化財馬場家住宅の保存と活用—古文書整理・調査活動と見学会報告．愛知県立大学日本文化学部論集，11， pp.53-63（2020.3）
- ・服部亜由未：役用書留帳に見る明治8年の片丘村．馬場家研究報告2019， pp.21-39（2020.3）

橋本操

- ・橋本操：奄美大島におけるハブとの共存・利用—一人びとの生命力，「奄美の象徴」としてのハブ—，地理，66(2)， 40-47（2021.01）
- ・橋本操，趙文琪，葉家歆，楊萌，山下亜紀郎：長野県上田市におけるニホンジカ（*Cervus nippon*）による獣害とその対策，地域研究年報，43， 171-191（2021.03）

安江健一

- ・安江健一，館野夏美，川合勝二，倉橋奨，長島雄毅，服部亜由未：峡谷部における洪水頻度の調査手法に関する研究，愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書，第16巻， pp.71-74（2020.9）
- ・廣内大助，澤祥，松多信尚，安江健一：1:25,000活断層図 糸魚川—静岡構造線断層帯とその周辺「信濃池田（改訂版）」，国土地理院（2020.11）
- ・安江健一：まちなかジオツアーで健康づくり，CURES newsletter（地域経済研究ニューズレター），117号， pp.6-8（2021.3）

長島雄毅

- ・長島雄毅，横田崇：三井越後屋京本店「火事役附帳」にみる火災への対応，愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書，16， pp.59-66（2020.9）

- ・長島雄毅：近世日本の人口移動に関する研究の展開—歴史地理学と歴史人口学の関わりから—，立命館文学，672，印刷中（2021.3）

■学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがある場合）

横田崇

- ・橋本徹，横田崇，世界の大規模地震の続発性—千島海溝の例—，地球惑星連合大会，オンライン開催（2020年5月）
- ・縣亮一郎，藤田航平，市村強，堀高峰，横田崇，地震被害想定に向けた有限要素法と有限差分法による地震動解析の比較，土木学会全国大会（オンライン），2020年9月
- ・草野富二雄，横田崇，三重県紀宝町浅里地区で行われていた水防対策から学ぶ—温故知新：先人の地域の防災DNAに学び活かす—，日本災害情報学会第22回学会大会（オンライン），2019年11月
- ・Agata Ryoichi, K. Fujita, T. Ichimura, T. Hori, T. Yokota, Comparison of ground motion analyses using finite element and finite difference method aimed for enhanced earthquake damage estimation, COMPSAFE2020 (ONLINE)

入倉孝次

- ・倉橋奨，入倉孝次郎，2008 Wenchuan Earthquakeの地表断層近傍における長周期速度パルスの生成，日本地球惑星科学連合2020年大会講演予稿集，S15-12（2020.7）
- ・松元康広，宮腰 研，入倉孝次郎，LMGAを考慮した特性化震源モデルによる地表地震断層近傍における永久変位量の評価—逆断層地震の場合—，日本地球惑星科学連合2020年大会講演予稿集，S15P-07，2020年7月
- ・倉橋奨，入倉孝次郎，Estimation of the strong motion generation area (SMGA) during the 2018 Hokkaido eastern Iburu earthquake，日本地震学会2020年度秋季大会，SSS04-12（2020.10）

中村吉男

- ・鴫田稔，野口真一，中村吉男，酒井崇之，中野正樹：コーン指数によるコンクリートがら混じり分別土砂の締め特性評価，第55回地盤工学会研究発表会講演集，22-1-2-06，2020.07（京都）
- ・中村吉男，小島淳一，肴倉宏史：通水方法の違いによる上向流カラム通水試験の吸着・溶出特性の影響について，第55回地盤工学会研究発表会講演集，22-5-3-05，2020.07（京都）
- ・中村吉男，小島淳一，肴倉宏史：密度条件および通水方法の違いが上向流カラム試験の溶出特性に及ぼす影響について，土木学会第75回年次学術講演会発表論文集，Ⅲ-458（2020）

奥川雅之

- ・矢野裕太郎，奥川雅之，インフラ/プラント点検ロボットによる目視点検に関する標準性能評価試験法の検討，日本機械学会機械力学計測制御部門講演会，Paper No.442（2020.9）
- ・奥川雅之，レスキューロボットコンテスト実行委員会，20年を迎えたレスキューロボットコンテストの役割と発展，第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2020），pp.45-49（2020.12）
- ・金島智樹，田中暉也，田面大地，小池暁士，一木健，原田祐志，奥川雅之やさしさを考慮した救助ロボットシステムの開発，第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2020），pp.54-58（2020.12）
- ・岩熊孝幸，多和田昇平，内田智啓，杳澤京，野村泰朗，渡邊彩夏，奥川雅之，土井智晴，レスコンシリーズにお

ける個人活動を集団活動に繋げる取り組み, 第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2020), pp.59-64 (2020.12)

- ・三橋知典, 渡邊彩夏, 長谷川大也, 奥川雅之, サブクサブクローラを有するクローラロボットにおける踏破環境とのインタラクション, 第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2020), pp.86-91 (2020.12)
- ・三浦洋靖, 松下教近, 奥川雅之, ロボットによる通信ケーブル敷設におけるケーブル張力をもとにしたオートリアル装置のドラム回転制御, 第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2020), pp.102-107 (2020.12)

山本義幸

- ・山本義幸: 景観イメージ画像作成への深層学習の利用可能, 令和2年度土木学会中部支部研究発表会, IV-57 (2021.3)
- ・竹内祐太郎・山本義幸: 深層学習によるアスファルト舗装面のひび割れ判別における学習データの検討 - 主成分分析によるアプローチ -, 令和2年度土木学会中部支部研究発表会, IV-59 (2021.3)

赤堀良介

- ・Ryosuke AKAHORI: RIPARIAN MICROTOPOGRAPHY OF SHONAI RIVER BY APPLYING POLE-CAMERA METHOD, Proceedings of the 22nd IAHR-APD Congress 2020, Sapporo, Japan, 3-1-4, 2020. (査読あり, Extended Abstract)

服部亜由未

- ・橋本操, 服部亜由未, 森田匡俊, 小池則満: 「海から目線」の防災—海上浮体構造物が海からの津波避難へ与える影響の検討—, 2020年日本地理学会春季学術大会発表要旨集, P149 (2020.3)

橋本操

- ・橋本操: 奄美大島におけるハブと人びとの共存方法—撲滅から棲み分けへ—, 2020年日本地理学会秋季学術大会, 116 (2020.10)

安江健一

- ・原田拓也, 山岡勇太, 今堀喜一, 中川潔, 大西宏治, 安江健一: 立山黒部ジオパークと富山大学による連携事例, 日本地球惑星科学連合2020年大会講演予稿集, O05-P42 (2020.7)
- ・安江健一, 山岡勇太, 田辺友也, 原田拓也, 打越山詩子, 田島敏美, 中川潔, 大西宏治, 今堀喜一: まちなかジオツアーで健康づくり—富山市街地における取り組み—, 日本地球惑星科学連合2020年大会講演予稿集, O05-P43 (2020.7)
- ・大西宏治, 安江健一, 山岡勇太, 原田拓也, 今堀喜一: 立山黒部ジオパークと大学教育との連携—初年次教育と教員免許状更新講習—, 日本地球惑星科学連合2020年大会講演予稿集, O05-P44 (2020.7)
- ・廣内大助, 松多信尚, 石山達也, 安江健一, 杉戸信彦, 竹下欣宏, 藤田奈津子, 澤祥, 水谷光太郎, 谷口薫: トレンチ掘削調査に基づく糸魚川—静岡構造線神城断層の活動時期—, 日本地球惑星科学連合2020年大会講演予稿集, SSS16-P04 (2020.7)
- ・岩沢冴子, 中村耕佑, 安江健一, 立石良, 寺門隆治, 楮原京子, 丹羽正和, 黒澤英樹: 太江断層西端付近に

おける断層分布と平均速度, 日本活断層学会2020年度秋季学術大会講演予稿集, p.26-28 (2020.11)

三浦洋靖

- ・三浦洋靖, 松下教近, 奥川雅之, ロボットによる通信ケーブル敷設におけるケーブル張力をもとにしたオートリール装置のドラム回転制御, 第21回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集 (SI2020), pp.102-107 (2020.12)

■学会発表・プロシーディングス (プロシーディングスがない場合)

平川一臣

- ・平川一臣: 昭和東南会地震時 (1944, 12.07) の渥美半島太平洋沿岸海食崖の崩壊: 1944, 12, 10米軍撮影の空中写真に基づく津波堆積物に基づく, 中部歴史地震研究懇談会, 名古屋大学減災館 (2020.11)

赤堀良介

- ・赤堀良介: 水難事故多発箇所に通ずる流れの特徴について, 令和2年度 環境水理部会研究集会2020 (オンライン) (2021.1)

倉橋奨

- ・Kurahashi. Susumu and Kojiro Irikura: Estimation of the strong motion generation area (SMGA) during the 2018 Hokkaido eastern Iburi earthquake, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, Virtual Meeting, SSS04-12 (2020年7月)
- 倉橋奨・入倉孝次郎: 2008 Wenchuan Earthquakeの地表断層近傍における長周期速度パルスの生成, 日本地震学会秋季大会, S15-12 (2020年10月)

久島桃代

- ・久島桃代: ロビン・ロングハーストに見る, からだ・空間・つながり, 「移動と共生」研究会 (名古屋大学高等研究院YLC共同研究採択) —身体/からだと移動に見る共生の契機, オンライン開催 (2021.3)

廣内大助

- ・中埜貴元, 松多信尚, 堀和明, 廣内大助, 杉戸信彦, 佐藤善輝, 石山達也: 遠州灘沿岸低地に形成された浜堤の内部構造把握に向けたGPR探査, 地球惑星科学連合, 幕張メッセ (2020.7)
- ・廣内大助, 松多信尚, 石山達也, 安江健一, 杉戸信彦, 竹下欣宏, 藤田奈津子, 澤祥, 水谷光太郎, 谷口薫: トレンチ採掘調査に基づく糸魚川-静岡構造線神城断層の活動時期, 地球惑星科学連合, 幕張メッセ (2020.7)
- ・竹下欣宏, 近藤洋一, 花岡邦明, 富樫均, 宮下忠, 関めぐみ, 中川知津子, 廣内大助, 野尻湖地質グループ: 長野県北部, 信濃町と飯綱町で新たに発見された活断層露頭, 日本活断層学会2020年度秋季学術大会, オンライン開催 (2020.11)
- ・鈴木康弘, 千田昇, 廣内大助, 松多信尚, 山中崇希, 五味雅宏: 松本市街地周辺の活断層に関する新知見, 日本活断層学会2020年度秋季学術大会, オンライン開催 (2020.11)
- ・廣内大助, 竹下欣宏: 新たに見いだされた飯綱-黒姫地域の活断層, 日本活断層学会2020年度秋季学術大会, オンライン開催 (2020.11)

長島雄毅

- ・長島雄毅：幕末の大都市周辺地域における人口移動の分析―丹波国桑田郡馬路村を事例として―，日本人口学会2019年度関西地域部会研究会，1，オンライン（2020.8）

■ 著書

平川一臣

- ・分担執筆）平川一臣：第四章第三節 災害とその影響，厚岸町『新厚岸町史』，ぎょうせい684～712（2020.12）

廣内大助

- ・廣内大助（分担）：「『子どもがつくる防災マップ』で登下校時の災害に備えよう」，教育指導時報No.852特集「教訓から学ぶ防災教育」，長野県教育指導時報刊行会，pp.8-11（2020.8）
- ・廣内大助（分担）：「通学中に災害！子供が自ら行動できること」，信州大学地域防災減災センター編「教えて！信州からの防災学」，信濃毎日新聞社，pp.30-33（2020.10）

橋本操

- ・向井貴彦，森部絢嗣，橋本操：哺乳類コラム5 シシ垣，向井貴彦，森部絢嗣，楠田哲士，田上正隆『岐阜県の動物―両生類・爬虫類・両生類・十脚類―』，岐阜新聞社，pp.114-115（2021.1）

安江健一

- ・安江健一：富山県のダイナミックで特色ある地形，富山大学地域づくり研究会編『大学的富山ガイド―こだわりの歩き方』，昭和堂，pp.27-41（2020.10）
- ・安江健一：呉羽山丘陵の成り立ちについて，『歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録』，一般社団法人立山黒部ジオパーク協会，pp.120-121（2020.10）
- ・大西宏治，安江健一：立山黒部ジオパークを題材とした理科と社会からの授業とSDGs，井田仁康編『持続可能な社会に向けての教育カリキュラム～地理歴史科・公民科・社会科・理科・融合～』，古今書院，pp.14-23（2021.2）